



また、各地に地方的品種がたくさんあり、これらは一般に出回ることが少ないので、家庭菜園で作ってみるのも楽しいでしょう。

品 種

一口にダイコンといっても、根の長いもの、丸いもの、細いもの、先太り、中太りなどさまざまなものがあり、葉にもそれぞれの特性がありますが、栽培時期で分けると次のものが代表的です。

〔秋どり用〕練馬、宮重、理想、大蔵、青首、聖護院、守口

〔春どり用〕二年子、三浦、桜島

〔夏どり用〕春まき美濃早生、亀戸、時無

栽 培 ポ イ ン ト

冷涼な気候を好み、生育適温は15～20度です。寒さにはかなり強いほうですが、根が肥大したものは凍害を受けます。また、低温にあうと花芽が作られるようになり、春はとう立ちします。この性質は品種によって差がありますから、春まきはとう立ちにくい品種を選ぶように気をつけましょう。高温には弱いほうですから、盛夏の栽培は高冷地などでなければうまくいきません。

●土● 畑土は特に選ばませんが、耕土が深く、排水のよい所が適しています。耕土の浅い所では、根が長くならない聖護院（丸型）や、根が地上に抜き出てくるタイプの宮重などが作りやすいでしょう。有機質肥料はたいせつですが、土中に固形物があると股根や変型根の原因になりやすいので、前作に堆肥などを多く施した所を作るか、半月以上前にすきこんで、よく作りなれている畑にまきます。有機物を多用することや、病株を早く片づけることによって、連作も可能になりますから、日頃から堆肥などを施すようにすることはたいせつなことです。

●管理● ダイコン栽培の中では、間引きが重要な作業になります。専門家はその品種固有の性質を見きわめながら間引きをしますが、これはむずかしいことなので、きわだって生育のよすぎるものや悪すぎるもの、葉の色や形が他と異なるもの、病気や虫食いのあるものなどを抜きとるようにします。

土寄せはダイコンの首の曲がりを防ぐために、間引きのたびに必ず行います。畝は土寄せのたびにだんだん高くなりますから、初めから高くはしません。畝幅も狭すぎると土寄せができませんから、きちんとするようにします。

●収穫● 収穫は秋どりで90～100日、春どりは、3月まきで80～90日、10月まきで120～140日、夏どりは60日ぐらいを目安にします。ダイコンは収穫が遅れると、「す」が入ります。す入りは老化現象の一種で、葉の切り口を見るとある程度わかります。とり遅れないように気をつけましょう。たくさんとれたときは、どの品種（大根は煮物、漬け物、生食用など品種によって分けられていますが）でも、漬け物や干しダイコンとして貯蔵できます。

栄 養

ダイコンは、主な食用部分である根よりも、葉のほうが栄養価が高く、ホウレンソウをしのぐといわれ、カロチン、ビタミンC、カルシウムが豊富に含まれています。ビタミンB₁、B₂、C、鉄分、リンなどは葉、根ともに含まれており、根のビタミンCは皮の部分に多く、浅漬けなどでは80%が摂取できます。

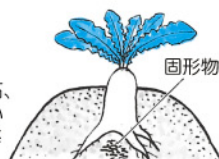
また、タンパク質は良質で、根にはアミラーゼを大量に含むため、他の食品の消化に役立っています。

1 畑の準備

タネまきの半月以上前に、1㎡あたり2握りの苦土石灰をまいて、40～50cmの深さまでよく耕しておく。土中の小石や草の根などのまざりものは除き、土をこまかく砕き、ならす。

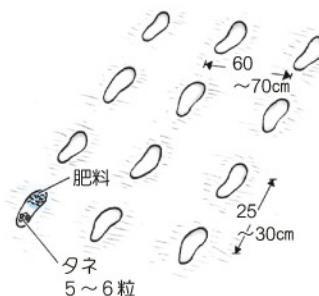


幼根の真下に未熟堆肥や肥料、小石、ごみなどがあると根の先端が傷ついて股になってしまう。害虫におかされた場合も同じ



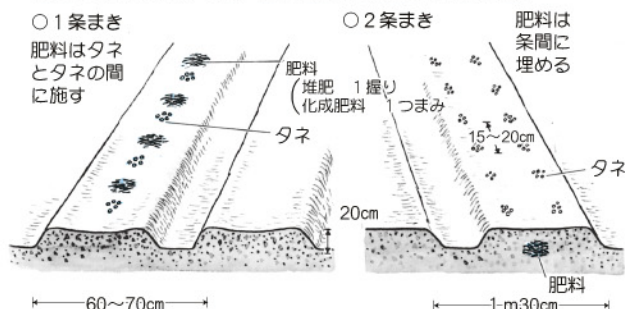
2 タネまき

曲がらないように畝なりにロープを張り、それに沿って足跡をつけ、つまさきとかかとの部分にタネと肥料を別々にまいて、覆土する。



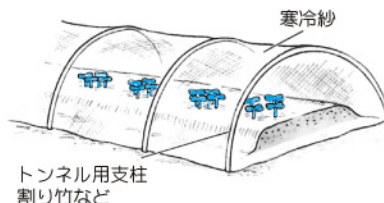
3 高畝のタネまき

水はけの悪い場所や粘質土の畑では、高畝にして栽培する。



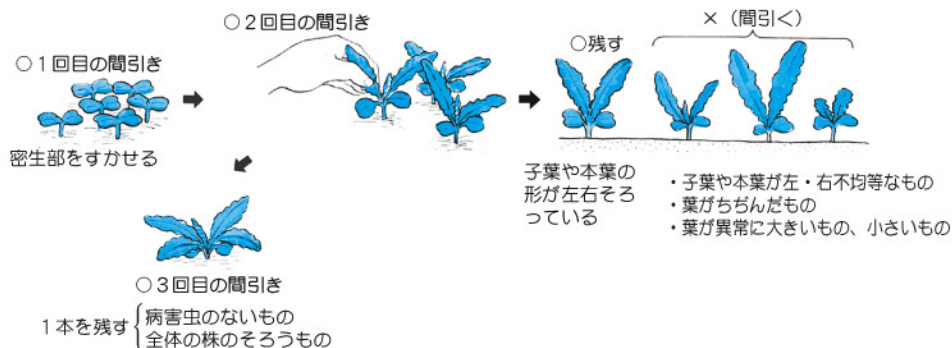
4 寒冷紗の被覆

寒冷紗のトンネルをかけて栽培すると、ウイルス病を媒介するアブラムシや、その他の害虫を防ぐことができる。



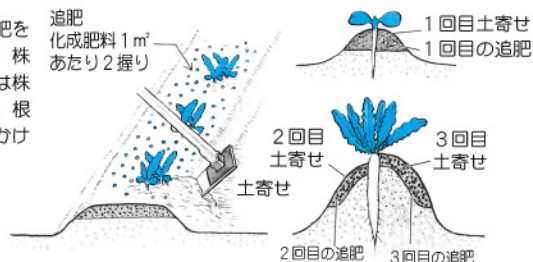
5 間引き

タネまき後2~3日で発芽する。子葉が開いたとき、本葉1~2枚のころ、本葉5~6枚のときの3回にわたって間引き、1本立にする。



6 追肥・土寄せ

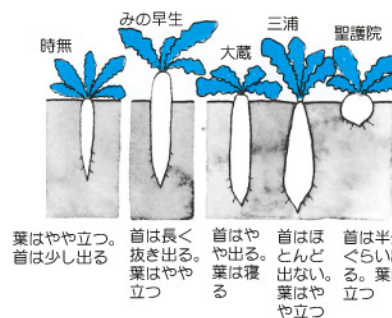
間引きを行うつど追肥を施し、畝間の土を耕し、株元に土寄せをする。土は株がふらつかないように、根肩が隠れるところまでかける。



7 株の特徴

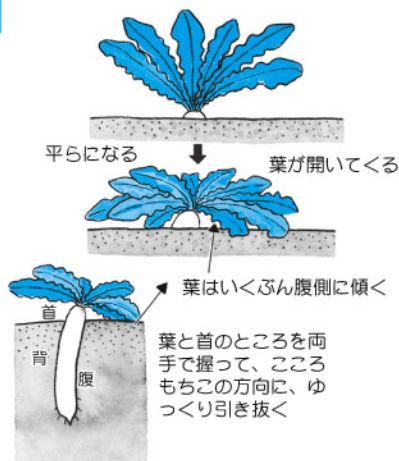
成長するに従って品種固有の特徴が出てくる。根の肩が出てくるものや、葉の開き方などに違いがあらわれる。

○春まき ○夏まき ○秋まき



8 収穫

外葉がたれ、中心部の葉が広がって頂部が平たく見えるようになるのが収穫期の目安になる。わずかな葉の傾きをよく確かめて、根の背と腹の向きを見分け、腹のほうに引くと抜きとりやすい。



9 貯蔵

一度に収穫しない場合は、短期間なら厚く土寄せしておけばよいが、寒さが厳しくなると凍ってだめになる。地中に埋めておけば、2月まで持つ。

主な病害虫

◆病気 萎黄病、軟腐病、ウイルス病
◆害虫 アオムシ、ヨトウムシ、アブラムシ